

昨今の、健康ブームで、ランニングやウォーキングをしている人達を目にしますが、昼間に実行できる人達は限られていて、特にサラリーマンなどは夜間に実行している事が多いようです。夕方や夜間に、歩道部を実際に歩いてみると、街灯等はあるが暗い場所が多い事に気がつきます。

そこで、歩道部に**フラッシュ境界ブロック**を設置する事で、現在の街灯の光量、自動車、自転車等のライトによりフラッシュ板がランニングやウォーキングをしている人達に対し歩道部に目標を作ってくれます。それにより、自分達の居住している周辺を安心して夜間、ランニング・ウォーキングをする事が出来ます。

自転車が車道を通りやすくなり、車道部から歩道部に乗り入れるような時に、今までのブロックでは乗り入れ部が解りずらく、また、斜の部分に自転車のタイヤがとられ転倒するのを目にするようになりました。そこで、現在の歩車道境界ブロックの端部、鉄筋コンクリートL形端部に**フラッシュ板**を装着し乗り入れ部分を視認し易いようにし歩行者と自転車の衝突事故や、車道部から歩道部への自転車の乗り入れ転倒事故を減らすことを目的としています。

自動車側から見た場合に、現在の歩車道境界はカーブ・中央分離帯、街灯などが無い郊外に注意を引く目標が無い為、**歩車道側面フラッシュ境界ブロック**を設置する事により、運転者からの視認性を高める事で事故を減少する事が出来、歩道部の歩行者の安全を守る事が出来るのではないかと考えています。

フラッシュブロックシリーズ

(意匠登録出願中)



FLTC-SFEA



FLTC-CB



FLTC-CA



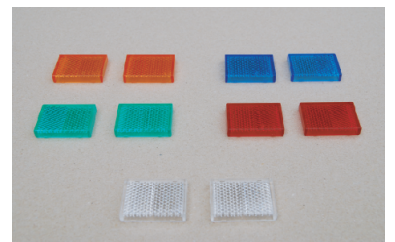
FLTC-K

フラッシュ境界ブロックの優れているところ。

- 1、安価で現在の光源で視認性を高められる。
- 2、フラッシュ板が破損した場合でも簡単にフラッシュ板のみ交換できる。
- 3、フラッシュ板の色は5種類ある為、必要部分にカラーを選別できる。
(オレンジ・赤・クリアー・グリーン・ブルー)
- 4、地先フラッシュ境界については黄色が最適と考えられます。視覚障がい者の方でも視認できる。(日中は誘導ブロックとして活用できるのでは?)
- 5、フラッシュ板が各ブロックの中央部にあるためブロックを各現場でカットする場合にも決してフラッシュ板がなくなる事は無い。
- 6、フラッシュ境界ブロックは、エコセメントを使用している。



フラッシュ中央分離帯ブロック(0.5R)



フラッシュ板 5色

(オレンジ・赤・クリアー・グリーン・ブルー)

フラッシュ板をセンターに装着する意味。

- 1、現場カットに対応する事ができる。
- 2、現場確認をしましたが、目地部分からの破損が多く、ひどい物は目地から8センチ位ブロックが砕けていた。
(14現場中、10現場での破損を確認しました。)

●この商品に対するお問い合わせ先

販売代理店

日本機材販売株式会社

東京都町田市相原町2092-1

TEL042-774-2445

製造元

株式会社竹本コンクリート工業所

東京都立川市一番町2丁目2番地2

TEL042-531-2115 (代)